



ひまわりノ畠

教育目標 思索・和敬・剛健
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう



<http://www.kyose.ed.jp/kyosedejotyujoukou/index.htm>

魚偏(さかなへん)に弱いと書いて「いわし鮎」

先日3年生は調理実習で、魚の蒲焼きを作っていました。20cmはある立派なマイワシで、何年も捕食者に食べられずに生き延びてきた個体のようです。

イワシといえば、理科の「地球と私たちの未来のために」という単元で、食物連鎖を学ぶ際に、第1次消費者の代表として登場します。

プランクトンはイワシに食べられ、そのイワシはマグロに食べられ、そのマグロは…、と続く弱肉強食の自然界の繋がりの中で、一番弱い立場にいる動物のひとつで、捕食者に狙われて、群れになって逃げ回る。というイメージの魚です。大群を作るのは、ドッヂボールで、仲間が大勢いる時は狙われにくいのと同じ理屈で、一匹の襲われる確率を下げるためと考えられています。



小学校の教科書に、谷川俊太郎さんが翻訳したスイミーという物語が載っていたと思います。仲間をマグロに食べられてしまった小さい魚が、色々な生物と出会うことでリーダーへと成長し、仲間と協力して、知恵を出し合い、大きな魚の影に見える群れを作り、マグロを追い払うという内容だったと思います。色々な経験をすること、仲間を作ること、協力すること、一人ひとりの個性を生かすことの大切さなど、子供たちへ沢山のメッセージが込められた物語です。スイミーはイワシがモデルだったのでしょうか？実際のイワシの群れにはリーダーがいる訳ではありません。それそれが周りの状況を瞬時に判断して、阿吽の呼吸で、行動を合わせるのですから不思議です。強いリーダーがいなくとも、腕力が強くなくとも、一人ひとりが的確に判断ができ、仲間と協力しながら、正しい行動ができる。人の社会であれば一つの理想のように思えます。しかしイワシは魚ですので、当然そのような思考はありませんから、やはり不思議です。



昔、イワシは大漁に獲れ、価格も安くて、庶民の台所には欠かせない大衆魚でした。1980年代の漁獲量は250万t以上もあり、成魚は干物、小魚は煮干し、幼魚はしらす干しなどに加工されるほか、家畜や養殖魚の人工飼料にも使われます。まさに、生物界全体の食料基盤をなす重要な生物種のひとつで、弱肉の立場でありながら、生態系の礎としては、強い立場の魚です。2000年代には、乱獲というよりは、気候や海流の変動が原因で、数万tまで激減してしまい、高級魚並みの価格になった時期もありました。近年は回復傾向にあるようです。この時期、マグロなどの大型種も漁獲量が減っていますが、食物連鎖は複雑であり、イワシの激減との因果関係ははっきりしていないそうです。マグロは、人間による乱獲もあり、絶滅が危惧され、漁獲量が管理されていますが、イワシはかなり減っても、絶滅の心配はされていません。捕食者としては強いマグロですが、生物界での立場は弱く、逆に被食者として弱いイワシは、種の生き残りとしては強いといえます。

イワシの漢字は魚偏に弱いと書きますが、これは、釣れてから痛むのが早いことからきているそうです。人間も、本当に強い人とは、どのような人のことをいうのでしょうか？いろいろなタイプがありそうです。3年生の調理実習でイワシを見たときに、フッと、そのようなことが、頭に浮かびました。

■いわしの蒲焼き 3年家庭科調理実習 11/27(木) & 12/5(金)

先月は1年生が「鮭の包み焼き」の調理実習をしていましたが、調理実習では、下処理をしてある食材を使用することが多いようです。この時も鮭の切り身を使っていました。しかし、今回の3年生は、魚をおろすところから、挑戦をしていました。最近では家で魚をおろすことも少ないのでしょうか？事前の授業で、魚をおろす動画を食い入るようにして見て、説明プリントで手順を確認していましたが、実際に魚に触れるのも久しぶり、あるいは初めての人も多かったようです。肩や手に力が入り、最初に包丁を入れた時に、悲鳴にも似た声や、歯を食いしばる表情をする生徒もいました。手で腹の中身を取り除き、背開きをして、背骨をはぎ取ったりと、作業を進めるうちに、だんだんと集中して、生徒たちは夢中になっていました。身がだいぶ痩せたり、焼く際に身が崩れたり、火が強すぎてタレを入れた際に飛び散ったりと、悪戦苦闘をしていましたが、出来上がったイワシの蒲焼きは、美味しく試食しました。日頃ご家庭で料理をしている生徒は手際よく作業や片付けを進め、中には事前に家で予習として作ってみた人もいたようです。今度は、アジの開きに挑戦してみましょう！



R7調理実習3年生いわしの蒲焼き 20251205

■ 「清瀬結核サミット」3年生の代表生徒が参加！

結核の歴史と深い関わりを持つ清瀬市では、毎年、結核予防会と協力して、様々な企画を実施していますが、今年は11月28日（金）の午後に、けやきホールにて、「清瀬結核サミット」を開催しました。

このサミットは「結核が亡国病と恐れられていた時代から多くの結核患者を受け入れてきた清瀬市が、結核との闘いの取り組みを広く世界に向けて発信して理解を深め、後世に引き継いでいくことを目的に、清瀬市にある公益財団法人結核予防会と、日本ビーシージー製造株式会社と共に開催したものです。（清瀬市HPより）

このサミットに関連して市内の中学生・高校生を対象に「清瀬結核サミットアンバサダー養成講座」が開かれ、本校から3名の3年生が参加し、当日、「若者から見た清瀬と結核」というタイトルで、意見発表をしてくれました。サミットには、結核予防会総裁であられる秋篠宮妃紀子さまをはじめ、理事長の尾身茂氏、清瀬市の滝谷桂司市長、そして海外から、結核予防研修のために、国際協力機構（JICA）を通じて結核予防会に派遣されている国際研修員の方々も参加されました。

閉会後に行われたトークセッションでは、生徒たちとの交流会が行われたそうです。参加した生徒たちには、貴重な経験となりました。ご苦労様でした。



【朝日新聞記事】「秋篠宮妃紀子さま、清瀬結核サミットに出席 中高生らとトークも」

※ 上の記事は、下のURLまたは右のQRからアクセスできます。

<https://www.asahi.com/articles/ASTCX2FBPTCXUTI004M.html>



■ 郷土博物館「清瀬と結核展」に、吹奏楽部が 歌唱で協力しました。

清瀬結核サミットに合わせ、郷土博物館で、「清瀬と結核～結核療養の歴史と現在、そして未来～」特別展が、11/1～12/7の期間開催されました。その展示の中に、当時、結核の撲滅への協力を国民に呼びかける目的で作られた「生きよ 国民（くにたみ）」という歌を紹介するコーナーがありましたが、その展示にあたり、市教委より、本校の吹奏楽部の生徒たちに歌唱の依頼があり、夏休みの部活中に協力をしてもらい、録音をしました。

昔ならではのメロディーと歌詞のため、生徒たちも、だいぶ苦労しましたが、当時の社会状況を垣間見る経験にもなりました。

※下のURL又は、右のQRコードより、音声データーでお聞きになれます。

<https://qr1.me-qr.com/music/9R7i7INV>



12月の避難訓練 想定：地震発生 3分36秒で避難完了！

本校の避難訓練は、実際の災害をイメージして、学校生活の色々なタイミングと、様々な想定で実施しています。12/10(水)の訓練は、生徒たちへの事前予告はせずに、「朝の始業前に、地震が発生」という設定で行いました。授業や学活などであれば、そこに教員がいて、指示を出し、安全確認をしますが、休み時間や放課後など、近くに大人が居ない状況では、自分自身で、退避行動や避難方法を判断しなければなりません。



今回は、登校から朝読書前の隙間時間、8時25分頃に実施しました。自己判断が試されました。

「訓練、ただいま地震が発生しました。安全を確保して下さい」との放送で始まり、退避行動は、その時の自分の状況で自己判断し、「揺れが収まりました。校庭への避難を開始して下さい。」の放送で、一番近い避難経路を自己で選択して避難をする。という流れでした。今回、避難開始の合図から、全学級の点呼が終了するまでの時間は、3分36秒と、4分を切ることができました。素晴らしいと思います。

実際の地震では、緊急地震速報が出された以外は、揺れ始めのタイミングで、校内放送は入らずに、やや収まりかけてからに入ると思われます。地震の揺れ方は複雑で、時間も長く何回も続き、収まったかの判断や避難のタイミングも難しく、体感として退避行動で待つ時間が長いです。



12月8日（月）の夜、青森県で震度6強の地震が発生しましたが、日頃からの備えが大切のようです。年始年末にご家庭の大掃除をする際に、年に1度の防災対策として、家の安全対策の点検や、非常時持ち出し品の入れ替え、家族での避難所や連絡方法の確認をされることをお願いいたします。

参考：清瀬市HP「災害への備え」 https://www.city.kiyose.lg.jp/kurashi/bousai_anzen/bousai_kiki/index.html